

平成20年度 指導者養成研修講座 研修報告(概要)

石川県教育センター 研修生
石川県立金沢伏見高等学校 教諭 峯 純子

研究主題 高等学校「公民科『倫理』」における先哲の思想」学ぶ
～中国の思想家の思想から「人間としての在り方生き方」を模索する～

要約:

近年の人間関係の希薄化や規範意識の低下、自己中心性の強まりなどから起きる諸問題を危惧し、豊かな人間関係の構築や道徳の規範意識の高揚を公民科「倫理」における先哲の思想を学習する中で見出したいと考えた。そこで、まず生徒の意識調査やアンケート調査、面接調査を実施し、実態に即した「生き方を考えさせる読み物」を創作した。その資料を活用し「孔子の思想」において、生徒自らが「人間としての在り方生き方」を模索するような、心にゆさぶりをかける3種類の授業を実施した。その結果、他者理解を示しつつ、「生き抜くこと」、「判断と実行」、「礼儀」などの道徳性を重要にする生徒が増加し、特に「社会規範」や「役割責任」においては大きな増加の変容が見られた。

キーワード 孔子の思想、人間関係の構築、規範意識、心のゆさぶり

1. 主題設定の理由

近年、経済の発展と科学の進歩により物質的には非常に恵まれた環境にある一方、核家族化や少子化とともに地域の都市化が進み、人と人の触れあいや豊かな人間関係の構築が妨げられている。人間関係の希薄化や尊厳の否定による昨今の痛ましい事件は社会に大きな警鐘を鳴らしていると言える。その特徴は次の3点にまとめられる。

- 1)核家族化や少子化、地域の都市化の進行による人間関係の希薄化
- 2)道徳の規範意識の低下による反社会的行動によるさまざまな問題の発生(いじめ・青少年非行・犯罪などの増加)
- 3)自己中心性が強く、自分の言動や行動が相手を傷つけていることを認知できないといった児童生徒の状況(反面、相手の言動や行動により傷つきやすいといったような、相反する心理、精神性もっている)

この1)～3)の現状は、日々生徒と関わる中でもうかがうことができ、豊かな人間関係の構築や道徳の規範意識の高揚が重要であると実感していた。このような現代社会で、公民として生きる資質を養うためには、「倫理」等で学ぶ、様々な先哲の思想が、「人としての在り方や生き方」の知恵や示唆を与える契機となる。その中でも孔子を中心とする中国の思想家の思想は日本に古くから根付き、社会で生きるために大切にされてきた思想である。しかし、生徒の実態は「思いやり」や「礼節」を大切に思う反面、「自分のことで精一杯で他人のことまで考えられない」、「昔の人の考えなど嘘っぽい」、「形式ばっている」などの批判的な意見が聞かれることも事実で、行動につながることも少なくない。それゆえ、優れた先哲の思想は時代や環境が変化した現代社会においてこそ、今一度青少年の生き方や在り方を考える上での「普遍的な価値観」として再認識するきっかけになると考え、この主題を設定した。

2. 研究の目的

- 1)道徳的価値観の中から、生徒の実態にあった着目すべき項目を抽出する。
- 2)生徒が孔子の思想を多角的にとらえ、自らがその素晴らしさを発見、感動できるような授業カリキュラムの開発と授業実践。(そのための教材の工夫、授業展開の工夫、教え込みや押しつけではない、生徒自らが発見していくための仕掛けの工夫をする)

3. 研究の方法

- 1)文献研究「向社会的行動」についての先行研究や「道徳教育に関する文献や資料を調査し、倫理や道徳の教材・指導案から教材のねらいや在り方についての骨子を理解する。
- 2)生徒の意識調査の実施
- 3)2)で明確にした骨子を具体的に、中国の思想家の思想をヒントに生徒の「思いやり」や「礼節」についての考え方を質的に捉え、生徒が人間としての在り方生き方を考える際の問題提起にするため質的に迫る。そのために、以下の調査を行う。
 - (1)道徳性に関するアンケート調査(対象:在籍校 3 年生「倫理」選択者 109 名)
 - (2)孔子の思想を元にした「思いやりに関すること」「礼節に関すること」「信頼に関すること」「生き方に関すること」などについてのアンケート調査(同上)
 - (3)(2)についての面接調査(11 名)
- 4)授業の実施
- 5)4)を受けての授業カリキュラム開発

4. 事前アンケート及び聞き取り調査結果

- 1)道徳性に関するアンケート結果(23 項目)
 - (1)「自分自身(5 項目)」については、「目標や希望に向い、勇気を持って生き抜くこと」を重要にとらえ(49.5%)、「真理・真実・理想を求め自分の人生を切り拓くこと」をあまり重要にとらえていない(42.7%)。

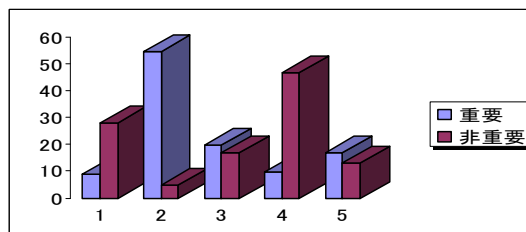


図1 道徳性(自分自身)についての重要度の比較(n=109)
(5 項目)

1. 望ましい生活習慣を身に付け調和のある生活をする
 2. 目標や希望にむかい勇気をもって生き抜く
 3. 何ごととも自分で判断し決定し実行し責任を持つ
 4. 真理・真実・理想を求め自分の人生を切り拓く
 5. 自分の良さを見つめ個性を伸ばしていく
- (2)「他人との関わり(5 項目)」については、「礼儀の意義」など

を重要にとらえ、「異性理解」や「相手の人格尊重」をあまり重要にとらえていない。(図表・項目省略)

(3)「自然や崇高なもののかかわり(3項目)」については、「生命尊重」を重要にとらえ、「自然や美を愛し、崇高なものへの畏敬の念」「人間としての誇り」についてあまり重要にとらえていない。(図表・項目省略)

(4)「集団や社会との関わりについて(10項目)」は、「公平さ」「家族の一員としての自覚」「外国や異文化理解」を重要にとらえ、「学校を愛すること」「日本を愛すること」「規範意識」について、あまり重要にとらえていない。(図表・項目省略)

2)思想に関するアンケート結果

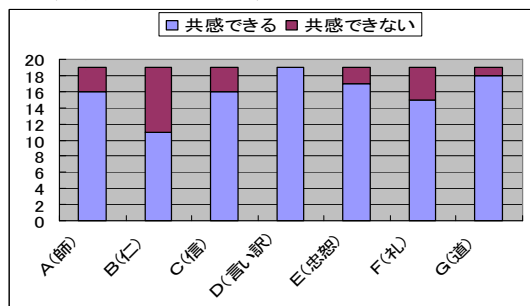


図2 各思想に関する項目別共感度 (n=109)

6段階(とても共感できる, まあ共感できる, 少しは共感できる, あまり共感できない, ほとんど共感できない, 全く共感できない)によるアンケート結果を「共感できる」「共感できない」に分類すると、「仁」に関する内容についての共感度が低いことがわかった。「礼」「信」「師」についても15%前後, 共感できていない。また, 孔子の思想の中心となる「仁」について, 「道」「言・語」「師」の共感度に共通性が見られた。また, 「信」や「礼」については, 「仁」より共感度が高い。また一方では「忠恕」について, 「仁」の共感度の高い群の中に「あまり共感できない」との回答が目につく。「忠恕」については, 「仁」よりも共感度の低い者と高い者に分散している。共感度の低いグループにおいては, 「忠恕」に関する教材が必要と思われる。このような結果により, 教材作成の視点を明らかにすることができた。

生徒の面接からのエピソードについては, 登下校時や部活動での出来事をはじめ, 日常的な挨拶, 小中学校時のいじめ被害体験, 祖父母の言葉や姿が語られた。

3)面接調査結果

243 のオープンコード(逐語録から, 意味のある内容文を記したもの)から, 一次, 二次, 三次コード, サブカテゴリー, カテゴリーへと抽出していった。その結果 4 つのカテゴリーの抽出により教材づくりの根拠として次の視点が明らかになった。

(1)人間関係に影響を与える要因

- ・部活動は人間関係構築に好影響を与えている。
- ・「思いやり行動」は自他に大きな効果を及ぼす。
- ・身近に「仁」があり, 特に「礼」には親や先輩の影響が大きい, など。

(2)自分優先の要因

- ・他人指向で生きるのは楽である。
- ・無意識の(気づいていない)行動がある。
- ・過去のいじめられた体験や傍観者の体験が積極的に人と関わることにブレーキを掛けている。
- ・自分に余裕がない, 我が身で精一杯になっている。
- ・損得勘定優先で, 自己犠牲など考えられない。
- ・現代社会を見て理想を語ることが現実的でないと考えている, など

(3)メッセージの発信方法

- ・だれもがマイナスに感じている「人間(他者)否定」を回避する方策を考案する。(同感・共感の共有)
- ・「仁」にまつわる実話は賛否両論(切り口2つ: 否定と肯定)

・礼節の在り方は, 外見, 内面, 制服とファッションなどから考えるとよい。

(4)孔子の思想への期待(考えさせる視点になる)

・共感するが行動しない(普遍的な道徳を当然のことと理解しているが行動に結びつかない)ことを自他共に不快に思っている。

・効果的な指導の鍵は「押しつけには反抗したい(第二次反抗期)年頃であること」「回りくどい表現は受け付けない」ことを考慮する必要がある。

・兼愛や神の愛には抵抗感があるため(知らない人への無償の援助には身の危険等, 賛否両論あり), まずは身近な「仁」を考えることに期待する。

5. 授業に向けての留意事項

1)道徳性についてのアンケート調査結果

予想に反して, 「人格尊重」「真理・真実・理想を求めての人生開拓」「人間としての誇り」「規範意識」の項目については低率であった。これらは人としての生き方あり方を考える上での, 根幹に関わるものであるため, 授業の中に意図的に組み込む必要がある。

2)思想に関するアンケート調査結果

特に「仁」についての表現を「他者を愛し, 優先させる」といった例で示したのだが, 意図に反して, 裏読み(何か見返りを期待しての下心があるから優先すると判断した)者が多く, 「ギブアンドテイク」が当然との考えが浸透していることがうかがえた。犯罪に巻き込まれる心配は少ないかもしれないが, 相手に対して何の見返りも求めない「向社会的行動」を, 警戒し素直に受け止めない高校生の心の一端を垣間見ることができた。

3)共感度に差があることについて

小学校でいじめられた経験があり, その時に寄り添ってくれた友だちの有無で, 他者優先や自己犠牲に対しての共感に差があることがわかった。幼少期にいじめの発生を防ぐことも大切だが, いじめられている子に寄り添う共感的心と行動力の育成が, 将来だれもが向社会的行動ができる, 思いやりあふれる社会につながると考えられる。

4)授業カリキュラムの開発について

具体的には, 思想に準拠する生徒のエピソードやその他の実話を付加した創作物やワークシートを準備する。それは(1)帰結している筋書きをもとに生徒が生き方を考える。(2)生徒が筋書きを選択し(あるいは創作し)帰結させて, 人としての在り方を考える。(3)結末からさかのぼり, 逆説的な発想で生徒を揺さぶってみる。これらの展開方法により, 教え込みでなく, 生徒自らが発見していくための仕掛けにする。形態としてはグループワーク・討論・発表・ワークシートを取り入れて実践する。実践後にその効果を比較検討, 考察し, 方法や内容をさらに改良し授業案を提示する。

6. 研究結果及び考察

1)授業実践

なお, 実践した全8時間の授業のうち, 3時間分は中間考査後の中国思想についての復習で, その後の5時間をグループワーク中心とした授業を行った。本研究は, 後者を中心にまとめたものである。

(1)孔子の思想についての共感度の変化について

すべての項目について共感度が高くなっている。授業実践校では, 「中国思想」についての授業がすでに終了しており, 私はその後復習を兼ねての「中国思想」の授業を実施した。そのため, より詳しい内容でスライドを使用し復習したこと, 中間考査後であったことも知識・理解の定着, 深化に影響があったと考えられるため, 本研究との関連性についてはこれ以上述べることはできない。

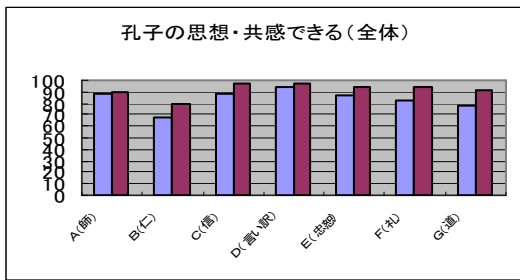


図3 授業前後の意識調査結果から(n=109)

(2)グループワークを取り入れた授業実践について
エピソード別の分類(表1)

分類	内容	展開方法	グループワークの状況
エピソード I (n=12)	主人公が「怒」を体験し、その体験を自己実現へとつなげた(共感・相手の立場に立つこと)	帰結している内容で課題について話し合う	まあまあ活発
エピソード II (n=18)	主人公に「怒」の体験がなく、結果的に人との関わりを避ける生き方を選択した(共感・相手の立場に立つこと)	帰結している内容で課題について話し合う	まあまあ活発
エピソード III (n=22)	場にふさわしくない服装をしていた他校生徒を見て思ったこと(服装を通して礼節について考える)	帰結している内容で課題について話し合う	不活発・すぐに沈黙する(授業者が介入しても改善しない)
エピソード IV (n=29)	主人公に「怒」の体験がなく、結末の3パターン(人を信じたり頼らないで生きる・困っている人を助ける・人と関わらないで生きる)の生き方を選択した	結末を選択し、さかのぼって、途中のストーリーを作り上げる	まあまあ活発
エピソード V (n=16)	学童保育のボランティア活動で、「私」は、子どもたちや友人のささいな言葉や行動などで傷ついた(長幼の序や相手への礼節について考える。相手の身になって考える視点を持つ)	帰結している内容で途中の台詞(課題)を作り、ストーリーを完成させる	活発
エピソード VI (n=14)	バイクのエンジン音に悩まされていた「私」とバイクの運転者(卒業生)との関わりで「己の欲せざる所に施す事なかれ」という格言をテーマに生き方を考える	帰結している内容で途中の台詞(課題)を作り、ストーリーを完成させる	まあまあ活発

①教材の作成と課題

授業ではワークシートと創作物を使用した。創作物(エピソードI~VI)の分類は表(1)のとおりである。生徒への事前意識調査及び面接調査をもとに、在り方生き方を考えさせることを目的に創作した。また、グループワークの課題は、ストーリー別のものと、ストーリーに関係なく共通するものを設定した。その意図は、事前の意識調査等で低率だった道徳性への関心を高め、理解を深めることである。

②授業の展開方法(3種)

- ・帰結している筋書きをもとに生徒に在り方生き方を考えさせる。(エピソードI, II, III)
- ・結末からさかのぼり、逆説的に心を揺さぶる。(エピソードIV)
- ・生徒が結末を選択し、さかのぼってストーリーを創作し、在り方生き方を考える。(エピソードV, VI)

③対象クラス

全4クラスで実施し、エピソードV, VIについては一度エピソードIVを実施しているクラスである。そのため2度目のグループワークになったことで、活動状況等に若干の差がみられる。なお、グループ員は1度目と2度目は異なっている。

④グループワークの状況

グループワークの活発さにおいては、概ね良好な意見交換ができていたように思われる。特にエピソードVにおいては、時間延長が必要になるほどであった。しかし、エピソードIIIにおいては、沈黙が続いたり、意見が出てもあとに続かなかつたり、授業者が途中で話す内容の方向性を示したりすることもあった。グループワーク後の発表の際には、案の定内容の乏しさを

が露呈していた。この状況は、次に述べる2)(2)の授業経過と意識の変容で見られたとおりの結果である。

2)結果及び分析

分析対象のアンケート調査・意識調査(事前事後に同じ内容のものを実施していた)は実践授業日から3~4週間後に実施している。また、事前アンケート調査実施日から、約5ヶ月経過している。そのため、両者間に記憶による影響はないと思われる。(エビングハウスの忘却の研究結果より)

そこで、授業分析は次の①から④の視点で行った。

(1)グループワークの質的評価(表2)

グループワーク結果の分類1 (エピソードI, II, IV, VIより)

カテゴリーの項目 (考えさせたい道徳性の項目)	抽出された内容
(1) 真心と思いやり(忠恕)、やさしさについて (人格尊重、礼儀、友だち、感動・思いやり、個性尊重)	①心と心をつなぎ、支え合うこと ②心から相手を思い、相手の立場に立ち、その気持ちを考えた行動 ③心のこもった気遣いや感謝の言葉 ④優しい言葉(挨拶・心遣いのある)とその行動
(2) 人間関係で大切にすること(人格尊重、礼儀、社会規範、公德心、感動・思いやり、個性尊重)	①相手への接し方や気持ちを伝える言葉と行動(励行・積極的) ②相手を不快にしたり傷つけないための言葉と行動(禁止・消極的) ③保守的・慣習的な人間関係構築 ④信頼と協力でつながり支え合うこと ⑤相手には礼儀正しく挨拶やお礼を言うこと
(3) トラブルの渦中にいる人(孤立している人)の考え方・感じ方 (感動・思いやり、友だち、生き抜く、切り拓く)	①内面に向かう気持ちの3カテゴリー 「自己の振り返りと反省」、「状況判断・行動のできない心の硬直化」、「他者依存」 ②他者に向かう気持ちの4カテゴリー 「援助者の存在に対する喜び」、「人の見方や行動に変化をもたらす」、「援助が状況を悪化させる」「無視された経験は人間不信にする」 ③一歩踏み出したときの気持ちの3カテゴリー 「自力で考え行動し、解決をはかるべき」、「傷つけない方法は、一人であること」、「他者と新しい関係を作る」
(4) 援助者の気持ち (人格尊重、感動・思いやり、友だち、誇り、社会規範、判断と実行、公正公平、役割責任)	①当然の援助と目指す解決 ②援助行動はいじめをなくする ③自分のためにもなる他者への援助 ④大切なのは話し合い、相手と向き合うこと
(5) 追従者・傍観者の気持ち (人格尊重、感動・思いやり、友だち、社会規範、生き抜く、切り拓く、公正公平、公德心、役割責任)	①「審らば大樹の陰」的な4カテゴリー 「自己防衛」、「恐怖で関わる勇気がない」、「他者援助の代償は大きい」、「一人では生きていけない」 ②行動とは違う本心の3カテゴリー 「心ない嫌がらせは気にしない」、「共感できる頑張る姿」、「協力者がいれば援助したい」 ③他人事の2カテゴリー 「無関心」、「トラブルは当事者同士で解決する方がよい」

グループワークの課題出題については、1)(2)①で述べたとおりで、意図した道徳項目は上の表2の左欄に示したとおりである。また、カテゴリーの抽出はグループワークや授業後に記載した生徒のワークシートの内容を書き出し、それらをもとにオープンコードを作成し、一次コードから二次、三次コードへと抽象度を高めていった。その後、サブカテゴリー、カテゴリーへと、さらに抽象度を高め、要素を抽出した。この抽出されたカテゴリーから、グループの意見交換を通して、心の揺れや人間観を垣間見ることができた。内容を比較すると、表2の(1)と(2)は非常に似ている。(1)が根底にあることで人間関係を大切にできると考えている。また、(5)の内容から、追従者や傍観者の中には少なからず本心と異なる行動を取っており、「もし協力者が現れたら援助者に転向する」という可能性が示唆されている(心ある傍観者、心ある追従者)。特に(4)②の援助行動が「いじめ」を無くすることにつながるという内容は、興味深い。もし、「心ある追従者」や「心ある傍観者」が援助者になったり、援助者に協力するような状況になれば、いじめの解消が期待される。一人ではなかなか援助者になれないが、傍観者の少しの勇気で複数の援助者ができれば、状況は好転するに違いない。このグループワークを通して、傍観者や追従者も同じ気持ちになっている場合があることを知り合うことができたと思われる。

(2)授業経過と意識の変容について

グループワークの活動について次の項目(1~5)で調査し道徳性の変化と比較検討した。(項目1:授業の関心度, 2:自分の考えの発言, 3:他者理解, 4:真心・思いやりに対する興味, 5:自分の在り方生き方の考え)

特に5段階(肯定的に捉えているほど高い数値)の2以下を示したものを含む図表を次に提示した。(表3)

1) 授業の関心度(興味・関心がある)

エピソード別	開始時	途中	終了時
エピソードI	4	5	5
エピソードII	3	4	5
エピソードIII	3	2	2
エピソードIV	5	4	4
エピソードV	5	5	5
エピソードVI	5	5	5

2) 自分の考えの発言(できた)

エピソード別	開始時	途中	終了時
エピソードI	4	5	5
エピソードII	3	3	4
エピソードIII	2	2	2
エピソードIV	3	5	5
エピソードV	5	5	5
エピソードVI	5	4	4

~20% : 1	~40% : 2	~60% : 3
~80% : 4	~100% : 5	

ほとんどの項目においては、授業の開始時から終了時に向けて正の評価(変容)が見られたが、上の図表に示したエピソードIIIに関しては、思いの外、負の評価(変容)になった。エピソードIIIの視点が教師のものであったためなのか、発言しづらかったように思われる。また、下位コードから察するに、制服を着ることの意味を考えるとなく、着用で褒められることのないものであることも一因であったようだ。いずれにしても、生徒にとって関心の薄いテーマであったようだ。

(3)各エピソードと道徳性の変容について

各エピソードと道徳性の変容 表(4)

道徳性の項目	エピソードI	エピソードII	エピソードIII	エピソードIV	エピソードV	エピソードVI
自分自身	生活習慣	生活習慣			生活習慣	
	生き抜く			生き抜く		生き抜く
	判断と実行	判断と実行	判断と実行			
	個性伸長				個性伸長	
他人との関わり	礼儀		礼儀			
	感動	感動				
	思いやり	思いやり				
	友だち				友だち	
自然や崇高なものとの関わり	個性尊重					個性尊重
	畏敬の念		畏敬の念			畏敬の念
	役割責任			役割責任	役割責任	役割責任
	社会規範	社会規範		社会規範	社会規範	
集団や社会との関わり	公正公平	公正公平		公正公平		
	勤労の尊重	勤労の尊重				勤労の尊重
	家族の一員		家族の一員	家族の一員		
	世界理解				世界理解	

表(4)は、授業前と授業後の道徳性についての意識調査結果を比較し、項目選択の割合に10%以上の増加が見られたものをエピソードごとに示したものである。減少あるいは0~10%未満の増加の項目については掲載していない。

道徳性の23項目の内容は以下のとおりである。

- ・自分自身についての道徳性:「生活習慣」、「生き抜く」、「判断と実行」、「切り拓く」、「個性伸長」から1項目を選択する。
- ・他人との関わりについての道徳性:「礼儀」、「感動・思いやり」、「友だち」、「人格尊重」、「個性尊重」から1項目を選択する。
- ・自然や崇高なものとの関わりについての道徳性:「畏敬の念」、「生命尊重」、「誇り」から1項目を選択する。
- ・集団や社会との関わりについての道徳性:「役割責任」、「社

会規範」、「公德心」、「公正公平」、「勤労の尊重」、「家族の一員」、「学校への愛」、「郷土愛」、「母国愛」、「世界理解」から2項目を選択する。

以上の結果、各エピソードと道徳性の23項目についての変化は、図表に示したとおりである。特に、今回の授業によって「社会規範」、「役割責任」、「生活習慣」、「畏敬の念」、「家族の一員」、「生き抜く」、「判断と実行」、「礼儀」、「学校への愛」などに正の変容刺激があったと考えられる。中でも「社会規範」や「役割責任」において、強く意識させることができたと考えられる。そこで、前述の(2)を振り返ると、エピソードIIIは「礼儀」「社会規範」「家族に一員」などの項目で非常に強い増加の変容が見られており、不活発で関心度も低く、表面上は成果の乏しい授業であったが、生徒の心は揺さぶられていたと思われる。(表5 参照)

道徳性の増減について(表5)

(1)道徳性(自分自身)について

	生活習慣	生き抜く	判断と実行	切り拓く	個性伸長
エピソードII	*	○	○○○○	△	△△△△
エピソードVI	△△	○○○○	○	△△	△

(2)道徳性(他人との関わり)について

	礼儀	感動・思いやり	友だち	人格尊重	個性尊重
エピソードIII	○○○	△	*	*	△△
エピソードV	○	△△	○○○	△	○
エピソードVI	△	△	△	*	○○

(3)道徳性(自然や崇高なものとの関わり)について

	畏敬の念	生命尊重	誇り
--	------	------	----

(4)道徳性(集団や社会との関わり)について

	役割責任	社会規範	公德心	公正公平	勤労の尊重
エピソードIII	○○	○○○○	*	○○○	△
	家族の一員	学校への愛	郷土愛	母国愛	世界理解
エピソードII	○○○	○	*	*	△△△
エピソードIII	○○○	*	△	△△△	△△△△△

*:増減無し		~10%減少△
~10%増加○	~20%減少△△	
~20%増加○○	~30%減少△△△	
~30%増加○○○	~40%減少△△△△	
~40%増加○○○○	~50%減少△△△△△	

7. まとめ

本研究は、倫理の授業の中で、道徳の目的でもある「人間としての在り方生き方」を考える際に、いかに心をゆさぶり、他者を理解し、より良い人間関係を作りながら生きていくことができるかを考えさせるものである。

授業を通して、他者理解を示しつつ「生き抜くこと」、「礼儀」などの道徳性を重要にする生徒が増加し、特に「社会規範」や「役割責任」においては激増した。その結果、次の1)~5)の内容が明らかになった。

- 1)創作物の主人公は、教師や大人よりも生徒の目線で見たとの方がよい。もし、大人や教師の視点で考えさせるなら、「第三者の目線」での課題を設定するとよい。
- 2)人間の在り方や生き方を考えさせるには、グループワークも他者との意見交換をしながら、自ら考え悩み、心を揺らすことに効果がある一つの方法であるといえる。講義形式のみでは、反発を感じる場合がある(事前の意識調査結果より)
- 3)高校生のグループワークは、一見不活発で乗りが悪くても内面は大いに悩み揺れている。このような倫理や道徳性についての「生き方」などのテーマで、機会をとらえて授業を実施することは意義がある。
- 4)日々テレビやインターネットで見聞きしている受け身の情報より、自ら考え悩む方が心に深く残る。
- 5)「心ある傍観者」や「心ある追従者」は「援助者」や「怒の実践者」に移行する可能性がある。

8. 今後に向けて

本研究での実践は、中国思想の思想家の学習、孔孟思想で扱ったが、以上を踏まえての授業は、思想等を扱う「倫理」だけでなく、「現代社会」や、「総合的学習の時間」や「LH」、「国語総合」でも実践できると考える。また、どうしたら「心ある傍観者」たちを援助者や「怒の実践者」に変化させることができるかをグループワークで考えさせることも必要であると考える。